

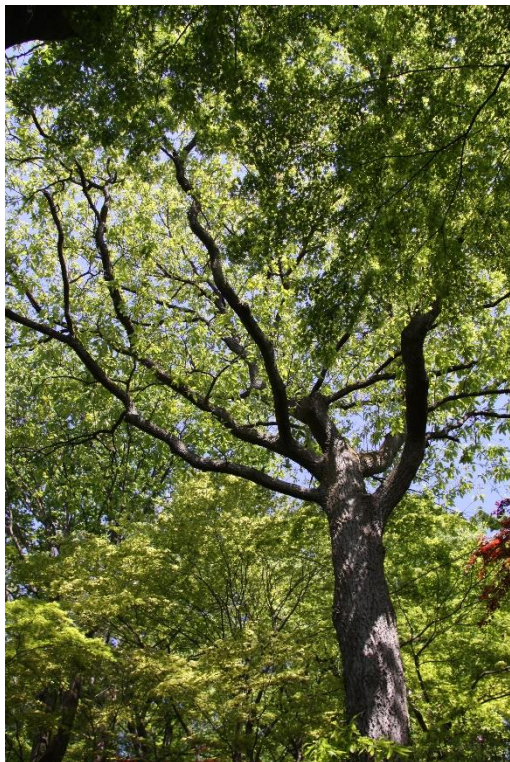
【樹木の部屋】

クヌギ (ブナ科コナラ属 *Quercus acutissima*)

和名：クヌギ **別名**： **英名**：Japanese Chestnut Oak、Japanese Oak

ブナ目 落葉高木 **原産地**：日本、朝鮮半島、中国

花言葉：たくわえ **花の色**：



← 写真-1 クヌギの樹形

撮影日：2017年05月05日

撮影場所：鯖江市西山公園(福井県)にて

撮影者：M さん

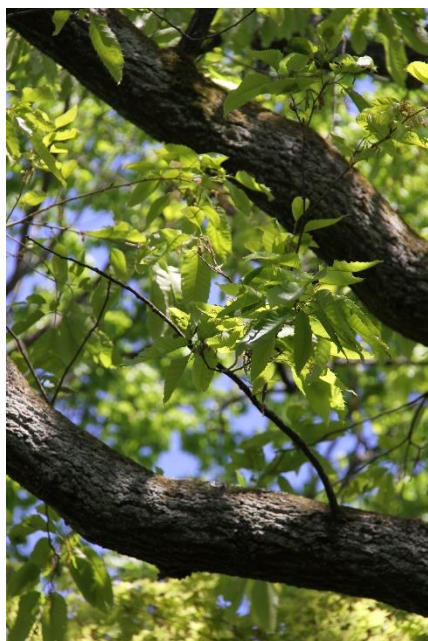


↑ 写真-2 クヌギの幹

撮影日：2017年05月05日

撮影場所：鯖江市西山公園(福井県)にて

撮影者：M さん

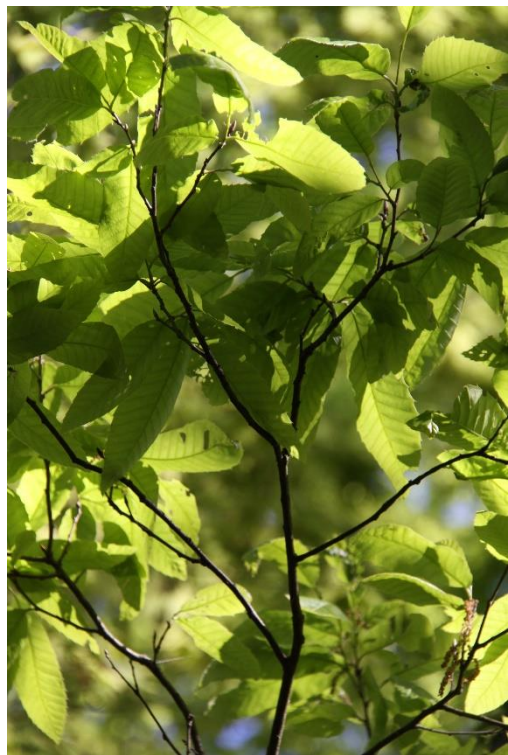


← 写真-3 クヌギの枝

撮影日：2017年05月05日

撮影場所：鯖江市西山公園(福井県)にて

撮影者：M さん



← 写真-4 クヌギの葉

撮影日：2017年05月05日

撮影場所：鯖江市西山公園(福井県)にて

撮影者：M さん

福井県鯖江市の西山公園に植えられていました。ちょうど、ツツジ祭りが催されているとの話を聞き、訪れてみました。公園の丘の斜面一杯に、ツツジが咲き誇っていました。クヌギは、丘の中腹にありました。この付近から上部は、ミツバツツジがアチコチに点在。モミジなどの落葉樹も植栽されていました。

クヌギは、虫の集まる樹としても知られています。幹の一部から樹液がしみ出ていると、カブトムシやクワガタなどの甲虫類やチョウ、オオスズメバチなどの昆虫が樹液を求めて集まります。以前はシロスジカミキリが産卵のために傷つけたところから沁み出すことが多いとされ、現在もほとんどの一般向け書籍でそう書かれていることが多いのですが、近年の研究では、主にボクトウガの幼虫が材に穿孔した孔の出入り口周辺を常に加工し続けることで永続的に樹液を滲出させ、集まるアブやガの様な軟弱な昆虫、ダニなどを捕食していることが明らかになったそうです。

材質は硬く、建築材や器具材、車両、船舶に使われるほか、薪や椎茸栽培の櫓木(ほだぎ)として用いられ、落葉は腐葉土として作物の肥料に利用されます。樹皮やドングリの殻は、つるばみ染め(橡染め)の染料として用いられます。つるばみ染めは媒染剤として鉄を加え、染め上がりは黒から紺色になるそうです。

<ちょっと一言>

クヌギの語源は国木(くにき)または食之木(くのき)からという説があるそうです。